※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 99

【様式２】

エントリー学校名：青森県立大湊高等学校

活動名：主体性の量的評価化と共有～多忙化解消と生徒の主体性アップ！～

解決すべき課題：

課題１：教職員が若手中心で生徒に対し全力で向き合う一方、それぞれの教育観に頼った教育活動もしくは、前年踏襲による教育活動が展開されるなど同僚性の構築されていない

課題２：教育目標と学年ごとの目標、ホームルームごとの目標の連携がなされていない（評価も同様）

課題３：国公立大学合格者数を評価指標とすることで、一部の生徒のみが評価対象となっている

課題４：模試やテスト成績の推移のみで生徒を評価することでの「学びに向かう力」の観点の不足

課題５：教材、課題、評価、指標がバラバラであった

目標・方針：

目標１：カリキュラム・マネジメントの考え方の活用と、多忙化解消を踏まえたＰＤＣＡサイクルの構築

目標２：多忙化解消を踏まえた生徒の主体性における量的評価導入によって生徒の変化を共有

方針１：教育目標を踏まえた目標設定に生徒も巻き込む。（例：学年→ＨＲ目標→生徒長期目標→生徒中期目標→生徒短期目標）それに加え、評価の指標共通化を図る。なお、評価による教員の負担増を避けるため、既存の評価と外部機関の活用と生徒自身の評価の活用を取り入れる。

方針２：方針１と連携し、生徒の主体性の評価基準を教員・生徒で統一し、教員の生徒に対する他者評価と生徒自身の自己評価の統一化

活動内容：【概要】（詳細は右図を参照）

①文章化されている教育目標を生徒にわかりやすいように、２つのキーワードに絞る

②教育目標→学年目標→ホームルーム目標→生徒の目標の順に体系化

③朝学習→週末課題→長期休業中課題→実力テストの教材の体系化

④評価の指標の統一化

⑤振り返りの手法（ＰＤＣＡサイクル）について講師を招いて進路講演会の実施

⑥生徒の手による毎日（短期目標）・月間（中期）・テスト（中期）・長期休業中・年間（長期）の自己評価と振り返りと目標設定

⑦手帳メーカーと連携することで目標と評価の一元化及び可視化

活動の成果：生徒における成果〇、教師における効果■

〇これまで、気づかないうちに国公立大学を目指せる学力層の生徒だけが、学校評価の対象となっていたが、すべての生徒が対象となった

〇テストの点数だけでなく、取組状況を評価されることによってモチベーションアップにつながった

〇成績が下がるなどの結果が出る前に未然に成績低下のサインに気付けた

〇生徒自身による日々のＰＤＣＡサイクルの実践によりマネジメントの能力アップにつながった

■チームで目標・評価基準・方法・教材を共有できたことで教科や経験の壁を越え、同僚性がアップした

■生徒の学びに向かう力を量的に評価できるようになったため、生徒の細かな変化に気付けるようになった

■多忙化解消につながった

アピールポイント（アイディアや工夫）：

・研修の知識を活用した

・新たな取組であるので、学年会議や関係する分掌と相談しながら進め、校務運営委員会で諮ってから方針を決定するなど、教員間の理解を深めながら実施した

・新たな取組は業務が増えることが多いが、必ず多忙化解消の視点を持ち、業務の統合や削減、外部関係機関との連携、既存のものの活用を心掛けた

①学校目標キーワード化

【大湊高校教育目標】

（１）真理と正義を愛し、健全な思考の習慣を養い、知性の高い人間を育成する。

（２）自主的に自分の行動を律し、責任を重んじ、実践力のある人間を育成する。

（３）心身ともに健康で、情操豊かで思いやりのある人間を育成する。

（４）主体的な進路選択、課題解決という総合学科の理念を実現する。

↓

キーワードを主体性と思考力に選定

②目標の体系化

【学年目標の例】

２学年：自己の進路目標を定め、達成に向けて主体的に行動する。

↓

【ホームルーム目標の例】

２１ＨＲ：「生徒の手によるクラスづくり」と「自己管理能力の向上」

↓

【生徒月間目標の例】

「帰宅後すぐに学習をはじめ、１日２時間（英語１時間、数学１時間）」

スケジュールを可視化する生徒も多かった

右はそのイメージ

③教材の体系化（外部テスト・教材の活用）

【これまでの教材の考え方】

朝学習や様々な課題は教員によって違ったり、忙しい教員は短期的な視野で作成してしまったり、作成にかなりの労力が必要なため年間を通じた計画的な課題作成ができていなかった。また、生徒にとっても着地点のイメージがわかず、提出することだけが目的となっていた。（答えを写すだけの生徒も多かった）

↓

【新しい教材の考え方】（テストと課題と評価が一体化した教材を導入）

朝学習（基本の確認）→毎日課題（標準問題）→週末課題（単元のまとめ）→長期休業（全体の確認と応用）→長期休業空けの実力テストに出題

※適宜教員の作成した教材も追加

④評価の統一（主体性Ver.）

【主体性の量的評価】

（１）生徒の立てた目標に対しての取組状況を〇△×で評価する。

〈学習が苦手な生徒の例〉

１日３０分数学を勉強する　→　４０分勉強した・・・〇

〈学習が得意な生徒の例〉

１日に古典・数学・英語をそれぞれ４５分勉強する　→　４０分勉強した・・・×

〇１点、△０．５点、×０点で毎日評価

（２）テストの点数も目標点に対する達成状況を〇△×で評価する。

〇１点、△０．５点、×０点で評価し、期間ごとの合計を集計

（１）、（２）により学習に対して得意不得意関係なく、取組状況のみで評価する。

④評価の統一（思考力Ver.）

【思考力の評価】

校外模擬試験の指標（ＧＴＺ：Ｄ３～Ｓ１）を活用する。

〈これまでの校外模試の考え方〉

国公立大学に合格可能な偏差値〇〇以上の人数が〇人増加などの評価方法で進学希望でない生徒は受ける意義を感じられずにいた。

↓

〈新しい校外模試の考え方〉

生徒それぞれの思考力を測るものとして活用する。５点が１０点に変化するだけでもいい。Ｄ３→Ｄ２でも意味がある。

⑤ＰＤＣＡサイクルの手法のガイダンス

〈これまでの指導〉

知識や受験スキルに偏っていた。

↓

〈新しい指導〉

課題に対する向き合い方や解決するための手法をガイダンスするため、外部講師を招いてその方法について学ぶ。

⑥生徒の手による評価

〈これまでの評価〉

他者評価であれば、教員の手による知識量に偏った評価であることに加え、教員の業務量も多い。また、自己評価であると評価基準が曖昧で量的評価が難しかった。

↓

〈新しい評価〉

知識量ではなく、自分の目標に対しての達成状況を評価する。統一された指標（〇△×）によって量的評価が可能になり、変化の検証などが可能となる。また、教員の業務量が減る。

⑦評価の一元化及び可視化

〈これまでの評価〉

様々な目標は立てるが、評価の場面まで見ない。また、改善の段階まで進まないことが多い（Ｐで終わり、もしくはＰＣで終わり）

↓

〈新しい評価〉

NOLTYプランナーズと連携し、学年全員に同一の手帳を持たせ、朝のＳＨＲの時間に前日の評価と改善策を踏まえたその日の目標設定をする時間を設定する。さらに、帰りのＳＨＲで手帳に連絡事項を記入させることで、目標やこれまでの評価を見る機会をつくる。そうすることで、目標の立てっぱなしにさせない。目標記入用紙の作成、印刷業務の削減につながる。